

子ども読書活動推進計画を策定して

子どもの読書活動は、子どもが言葉を知り、表現力を高め、創造力をふくらませ、人の優しさ・怒り・信頼などの感性を学ぶ場でもあります。易しく大きな字から始まった読書も、成長するにつれて、難しいけれど興味のある分野の本へと発展していきます。本を読むことによって、学ぶ力、考える力が身につき、大人になって困った時に対処する方法を見つける力をつけることができます。

田原本町の読書活動の取り組みの現状について各学校・団体から報告がありました。各分野でそれぞれ大変熱心に活動されていることに驚きを感じました。特に、保健センターの取り組みとして、4ヶ月児健診に来所した乳児とその保護者を対象に行う、「ブックスタート事業」があります。生後4ヶ月の乳児が、「本を読んでもらう」ことに何らかの反応を示すことが報告されました。

幼稚園や小学校までは懸命に本を読む児童も、ゲームや塾通い、中学校に入ると部活動をするようになって読書量が減ってくる傾向にあります。また、教育改革の名のもとに、小・中学校の国語科の授業の時間数が減り、教科書から文学作品が少なくなっていることも、子どもたちが読書から遠ざかっている遠因になっています。

平成12年を「子ども読書年」と定め、国を挙げて子どもの読書活動を支援する必要性を明らかにしました。もとより、子どもの読書活動推進計画は、子どもが言葉を知り、表現力を高める子どもの読書活動推進を目指す取組ではありますが、子育てをしている大人（父・母だけでなく家族ぐるみ）の読書活動の推進の必要性も痛感しました。はじめは、親が子どものために、一緒に本を読んでも、子どもが自力で本を読めるようになった時、親は自分のための読書を続けていく活動でもあると思います。

この策定では、田原本町立図書館を核に、幼稚園、学校などの機関の連携活動及びボランティアの育成が推進の中心になります。そのため、(仮称)「子ども読書活動推進協議会」を設置し、関係者の力を結集して、さらに具体的な取り組みを模索していきたいと考えています。

この策定委員会を4回に開催し、各委員の方々には多忙な中を出席いただき、取り組みの報告や策定について貴重な意見や方策を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

田原本町子ども読書活動

推進計画策定委員会

委員長 阿部 義輝